

令和6年度 第2回足近小学校学校運営協議会 議事録

1 日 時:令和6年9月13日(木)10:00~11:30

2 出席者:学校運営協議会委員 11名

3 内容

(1) あいさつ(会長)

(2) 協議等

*現状について

①コミセンには田植え体験、高齢者とのふれあいなどで場をつくってもらっている。

主任児童委員さんは朝の見守りを始めてくださっている。また、読み聞かせを2回計画していただいている。

老人クラブの方には花の苗植えを教えていただいている。

②幼保小の連携として、夏休みに全職員が足近保育園実習を行った。

③熱中症対策として休み時間や体育の前に WBGT を測定し、28℃以上の時は活動を中止しているため、子供たちが外で遊ぶことが少なくなった。

*絆会議について

羽島中校区4校で取り組むことを地域との双方向でできないか話し合っている。ホカホカレターのようなものを利用し、地域の方の声を集められないか検討中。

【委員】よい発表であった。地域の中で気づいていない人にアクションを起こせたらと思う。

【委員】双方向がキーワードになっている。

子供が何かをしたとき、大人のリアクションがあって手ごたえを感じる。頑張ったら返ってくるのが大切。ホカホカレター書くことになると、書くための交流の場が必要。

*第1回羽島市コミュニティ・スクール推進協議会報告

【参加委員】白川村教育委員会 社会教育主事 新谷さゆり氏の講話を聞いた。

活動でつながるのではなく、目的でつながることが大切であると主張されていた。学年ごとに数人のコーディネーターがおり、活動の工夫がされている。「学校が」ではなく、「地域が」中心となって動くにはコーディネーターが重要なポストである。

*その他

昨年度の運動会で中学年が足近音頭を披露したが、今年度は全校で踊る予定。

足近フェスティバルも例年通り参加

学校の様子を発信するために、学校だよりを回覧板で回したり、コミセンに掲示したりしていく。

(3) 授業参観

*各学級4分ほど参観

(4) 意見交流

【委員】

楽しい授業参観であった。コミュニケーション力を高める授業に驚いた。人と関わる経験が少なくなってきたおり、大人と関わることも減ってきている。以前は自然に身についてきていたものがなくなってきたのだろうか。

【委員】

いろいろな場面で切り替えができている。姿勢もよい。とても集中して自分から参加している。夕方、グラウンドで遊んでいる子供の姿を見る。羽島市の子育てで、放課後子供の居場所がないという意見もあるが、足近のように自然発生的に集まっているのはうれしい。

【委員】

下校後に仲良く遊んでいるのは良い。
コミュニケーションの授業は大人も一緒に受けると良いと思った。

【委員】

授業が楽しそうだった。意見もしっかりしている。きりっとした気持ち良い態度で、足近の子は良い子に育っていると感じた。

【委員】

子供と花壇をやっているが、目と目が合うと反応してくれる。よそで会っても声をかけてくれる。保育園で畑をやっているの、大きくなった中学生でもあいさつをしてくれる。ホカホカレターをやるには接点があることが必要で、そうした機会を増やしてほしい。

【委員】

小学校の先生が保育園実習を終えて、今後どうしていくかまだ具体ではない。年長と1年生が交流する場や、保育園児が学校の様子を知る機会があるとよい。

【委員】

今の大人は横のつながりができない。チャットはいいが、顔を見て雑談ができない。コミュニケーションの授業は驚いた。

【委員】

時代のギャップを感じる。
自分は、親や先生にさからえない時代であった。友達と遊ぶしかなかったし、1～6年生が集まって遊んでいた。今の子はできないからかわいそうだと思っていたが、下校後の様子を聞くと、ちょっと昔に戻って嬉しい。縦のつながり、横のつながり、もっと自由に学び遊び、親ももっと親密になれると良い。

(5) 閉会の挨拶(会長)

絆会議で地域との交流の大切さが話し合われたが、地域のつながりはあるのだろうか。役がある人は一生懸命やっているが…。子供が地域をつなげる接着剤になるが、秋まつりやおみこしは子供の人数少ないから中止にしますと言われ残念な思い。もう、学校の行事を通して地域のまとまりをつくるしかないので、学校に期待している。